

過走行車のヤレは こんなところに表れる

試乗にてフィーリングチェックの後には、メンテナンスの面から W210 のヤレ具合を検証していきたい。コストダウン、生産効率優先と言われた W210 の 11 年目の真実を探る。

文/撮影=G.C.E 協力=セントラルオート(TEL.03-3883-9922)

※発覚指数は劣化の症状に気づきやすいほど★が増えます。



あなたの知らないところで劣化は進んでいる

HMF ユニット



発覚指数 ★★☆☆☆

メインコンピュータとは別に様々な電子装置をコントロールしている。壊れると高額になるパーツだけに、中古品を見つけたら購入しておきたい。

ショックアブソーバー



発覚指数 ★★☆☆☆

ショックは交換後の満足度が高い部分である。乗り心地や走りが激変するので、ショックが抜けていたり、オイル漏れをしているなら即交換を。

ロアアームブッシュ



発覚指数 ★★☆☆☆

過走行車のほとんどは、ロアアームブッシュに亀裂が入っているか、切れているケースが多い。その場合は早めに対処しておきたい。

クランクプリー



発覚指数 ★★☆☆☆

クランクプリーに備わるゴムブッシュが劣化すると、プリーがエンジン側に外れてシリンダーブロックの外壁を傷付けてしまうこともある。

安心して乗り続けるためにも

過走行車は AT オーバーホールが必須

発覚指数 ★★★★★

前期型に多いのが変速しなくなってしまうこと。コンダクタープレートと呼ばれる内部にある基板が熱により溶けてしまい、トラブルを引き起こすのが主な原因である。前期型だけでも内部の部品が3種類存在し、後期型になるにつれて完成度が高まったATなので、前期型のオーナーはATのオーバーホールを視野に入れておきたい。



シフトのガタつき

発覚指数 ★★★★★

W210 の AT には 2 個のブッシュが備わる。これが切れてしまうとガタつきを起こす。ホワイトが4速用で、グリーンが5速用。

ウインドーレギュレーター



発覚指数 ★★★★★

リアはワイヤー式となる W210 のパワーウインドーレギュレーター。経年劣化によりワイヤーが切れてしまうケースが多い。

シートスイッチ



発覚指数 ★★★★★

シートメモリーが使えなくなったり、電動シートが作動しなくなるトラブルが多い。壊れる前には前兆があるので、それを見逃さないようにしよう。

シートのヘタリ



発覚指数 ★★★★★

過走行車は座面が沈んでしまっていたり、スレやキズも多くなる。スレなどの外側の劣化は、リペアで補修できる。

ヘッドライトレンズの曇り



発覚指数 ★★★★★

前期型のほとんどはレンズが曇っている。後期型はユニットごとの交換だが、前期型はレンズのみの交換も可能。

逆に言えば、劣化に気づくためにも定期的な点検は他のモデルよりも必要であるし、それによって本来の性能を取り戻すことができるのである。苦勞して手に入れた愛車であるなら、安心して乗り続けてほしい。しっかりとメンテナンスをすれば、費用に見合った満足感を与えてくれる。それは W124 だけではなく、W210 にも言えることなのだ。

「過走行車を見てみると足回りがヘタっているクルマがほとんど。ショックやブッシュ類、アライメントも狂っている場合が多いですね。あとは AT です。前期型と後期型では使っているパーツも全く違いますから、問題の多かった初期型で距離が進んでいるクルマなら、オーバーホールを考えた方がいいでしょう」

また江澤氏に11年目のW210について聞いてみると、W210は劣化に気づきにくいモデルだという。オイル漏れについても、それが原因で2次災害を引き起すケースは少ないそうだ。もちろん安心して乗るためにも放置しておくことはお勧めできない。それが良いのか悪いのかは別として、劣化を気にせずに乗り回すことができるのがW210というクルマなのである。

「過走行車を見てみると足回りがヘタっているクルマがほとんど。ショックやブッシュ類、アライメントも狂っている場合が多いですね。あとは AT です。前期型と後期型では使っているパーツも全く違いますから、問題の多かった初期型で距離が進んでいるクルマなら、オーバーホールを考えた方がいいでしょう」

また江澤氏に11年目のW210について聞いてみると、W210は劣化に気づきにくいモデルだという。オイル漏れについても、それが原因で2次災害を引き起すケースは少ないそうだ。もちろん安心して乗るためにも放置しておくことはお勧めできない。それが良いのか悪いのかは別として、劣化を気にせずに乗り回すことができるのがW210というクルマなのである。

ATの寿命が近い
クルマが増えてきた

登場から11年が経過し、走行距離が多めのモデルが増えてきている。たとえ今、過走行とは言わないまでも、乗り続けていけば、やがて過走行と言われる走行距離になる。そんな時にどんな症状が表われるのか。セントラルオート工場長の江澤氏に聞いてみた。